

平成 30 年春期 システム監査技術者試験 合格発表 アイテックコメント

(株) アイテック IT 人材教育研究部 2018,6,20

4 月 15 日 (日) に行われた平成 30 年春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。同時に発表された得点分布などの統計データの分析をもとに、システム監査技術者試験の合格発表コメントをお知らせします。

■システム監査技術者試験 (AU)

[平成 30 年春期のシステム監査技術者試験 統計情報]

応募者	4,253 人
受験者	2,841 人
合格者	408 人
合格率	14.4%

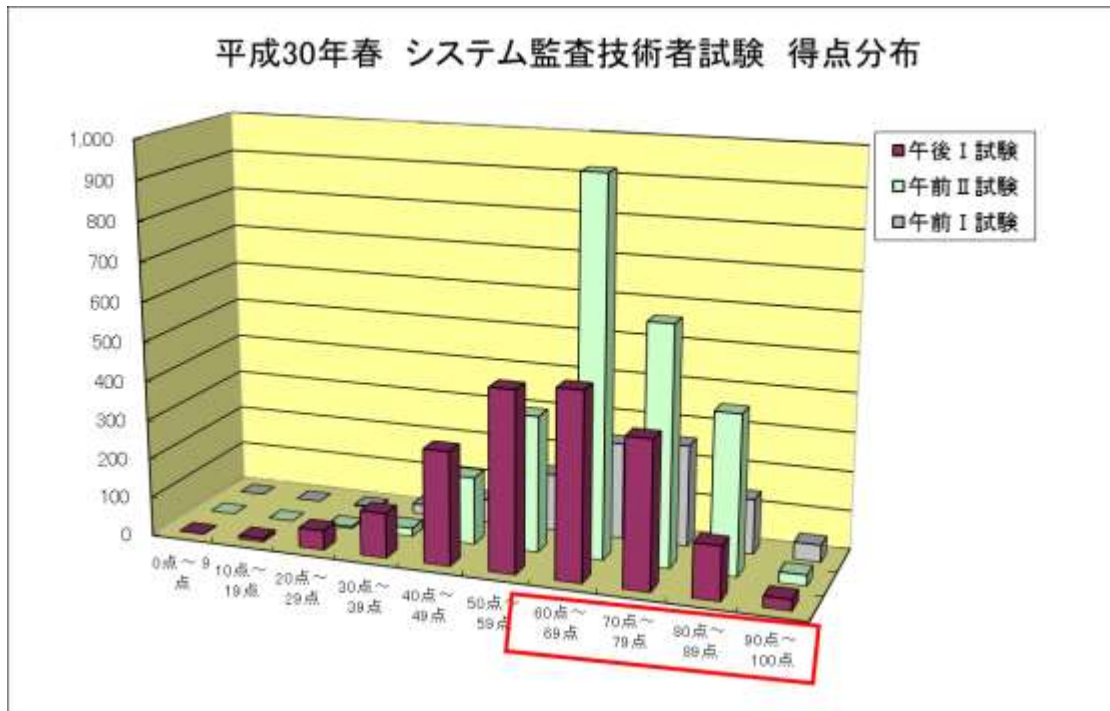
平成 30 年春期のシステム監査技術者試験の合格率は 14.4%で、前回の 15.1%に対して微減でした。

次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

[平成 30 年春 システム監査技術者試験 スコア分布]

得点	午前 I 試験	午前 II 試験	午後 I 試験	午後 II 試験	合格者
0 点 ~ 9 点	0	0	1	D	102
10 点 ~ 19 点	0	0	9		
20 点 ~ 29 点	3	5	50	C	171
30 点 ~ 39 点	25	21	114		
40 点 ~ 49 点	59	172	289	B	312
50 点 ~ 59 点	146	346	457		
60 点 ~ 69 点	246	948	472	A	408
70 点 ~ 79 点	259	604	373		
80 点 ~ 89 点	140	403	136		
90 点 ~ 100 点	44	27	28		
計	922	2,526	1,929	993	408
対前試験比率		274.0%	76.4%	51.5%	41.1%
午前免除者 (概数)	1,919	67.5%			

合格者数	408	採点者数の割合	合格者数との差
午前 I 60 点以上合計	689	74.7%	281
午前 II 60 点以上合計	1,982	78.5%	1,574
午後 I 60 点以上合計	1,009	52.3%	601
午後 II-A 評価	408	41.1%	0



午前 I 試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で 1,919 人 (67.5%) おり、受験者の 7 割弱の人が午前 II からの受験となっています。この午前 I 試験で基準点 60 点以上取ることができた人は 689 人 (受験者の 74.7%) でした。

午前 II 試験で基準点以上の人 1,982 人 (受験者の 78.5%) で前回の 86.9% から下がりました。

午後 I で基準点 (60 点) 以上取れた人は 52.3% で、前回の 46.0% から増加しました。

午後 II で合格点の A 評価だった人は 41.1% で、前回試験の 44.8% と比べてこちらは減少しています。アジャイル型開発とシステム監査計画策定のテーマが書きづらかったと思われます。

■平成 30 年春期 システム監査技術者試験の出題内容について

(午前 I 試験 (高度試験の共通知識問題))

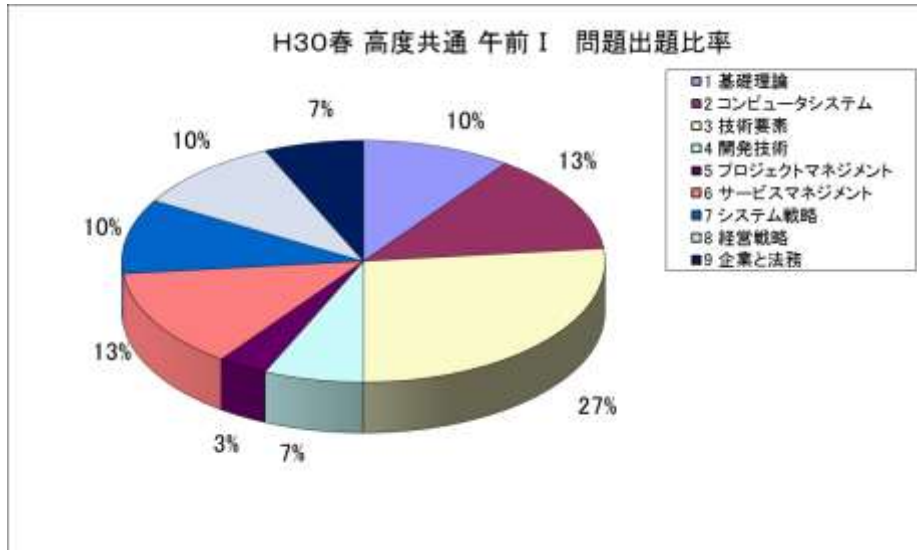
・高度試験に共通して出される問題 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) から選ばれています。今回の問題内容は、計算問題が 7 問で増え (前回 4 問)、考察問題が 1 問で減り (前回 3 問) ました。他の文章問題は 19 問 (前回 18 問)、用語問題は 4 問 (前回 4 問) で大きな変更はなかったです。基礎理論の問題が前回同様、例年より解答しやすい内容でしたが、新傾向問題が少し難しかったといえます。

- ・過去問題の比率は約 6 割で従来どおりの比率です。
- ・分野別の出題比率は前回と同じで、出題範囲の中で 23 ある中分類からまんべんなく出題されていますが、重要な内容 (中分類) からは複数出題されています。現在はセキュリティ分野を重視した出題になっており、出題数は前回と同じ 4 問でした。
- ・新傾向問題は次の 5 問で細かい知識を問う問題だったといえます。

(新傾向問題)

- 問 8 ノード分割後の B + 木構造
- 問 9 NoSQL に分類されるデータベース
- 問 10 ESTI で提案された NFV に関する記述
- 問 13 VDI サーバのセキュリティ効果を生み出す動作
- 問 24 EMS の説明

平成 30 年春期の高度試験共通 午前 I 問題出題比率



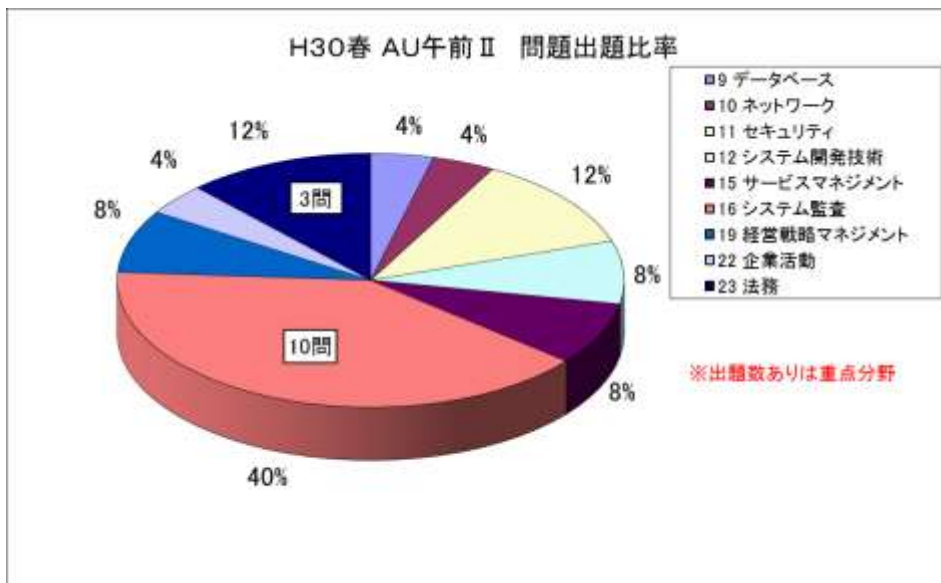
(午前 II の専門知識問題)

監査の専門分野からの出題数は前回と同じ 10 問で、前々回の 12 問から減りました。

システム監査の事例では、ネットワークやセキュリティの技術を理解している必要があるものが多いので、不足している知識については、日頃から知識を身につけていく必要があります。

また、今回は 14 年ぶりに改訂された新システム監査基準、システム管理基準で出題されると思われますので、改訂概要含めて理解しておく必要があります。

平成 30 年春期のシステム監査技術者試験 午前 II 問題出題比率



過去のシステム監査技術試験問題の出題は 4 問で従来傾向よりも少なくなっています (前回 11 問)。また、新傾向問題としては次の 3 問がありました。

問 14 技術者倫理における集団思考の問題点

問 19 サイドチャネル攻撃に該当するもの

問 25 サービスプロフィットチェーンの説明

次に、午後 I と午後 II 試験の分析結果をお知らせします。

〔午後問題〕

・午後Ⅰ問題の出題分野とテーマは次のとおりです。問題事例を理解するのに技術知識が必要なものは特にありませんでした。問１と問２は解答を絞りづらい設問が多く、問３はすべて空欄穴埋め形式の問題で従来と違う問題形式でした。解答しづらい問題はありましたが、受験者の得点には大きな影響はなかったようです。

問１ システムの投資対効果の検証制度を対象とした監査（レンタル会社） やや難

ステージゲートの概要，予備調査／本調査の概要，ステージ登録内容，不足費用項目，コントロールを確認する監査手続，監査部の確認内容，審査時期の具体的確認内容，リスクと監査要点
問２ データ分析システムの監査（働き方改革がテーマ）（サービス業） やや難

開発／企画の責任者ヒアリング，本調査の結果，データ収集に関するリスク，個人情報管理のコントロール，システム運用上のリスク，成果確認の監査手続，会議効率向上確認の監査手続

問３ 販売管理システムの監査（日用品卸売り会社） 普通

現在と新しい販売管理業務の概要，予備調査結果の検討，受注責任者の承認コントロール，受注データ監査手続の文書名と確認事項，承認省略のリスクとコントロール，処理漏れ確認の監査手続

・午後Ⅱ問題の出題分野とテーマは次のとおりです。前回は２問ともセキュリティ関連のテーマでしたが、今回は初のアジャイル型開発と、出題頻度が低いシステム監査計画策定だったことが特徴といえます。

問１ アジャイル型開発に関するシステム監査について

システム概要，アジャイル採用理由と開発内容，想定リスクとコントロール，ウォーターフォール型と異なるリスク，体制，スキル，開発環境，整備状況確認の監査手続，監査証拠と確認ポイント

問２ リスク評価の結果を利用したシステム監査計画の策定について

組織の業務と情報システムの概要，監査部門のリスク評価実施，監査対象の選定／監査目的の設定を行う手順・留意点，監査部門以外実施のリスク評価結果の利用（監査対象の選定／監査目的の設定を行う利点・問題点・監査部門の必要な措置）

